

資料1 浅口市環境審議会 委員名簿

No	所属	役職等	氏名	備考
1	浅口市議会	議長	伊澤 誠	市議会議員
2	国立大学法人 岡山大学大学院 環境生命科学研究科	准教授	松井 康弘	学識経験者
3	岡山県備中県民局 地域政策部 環境課	課長	花田 貴広	関係行政機関
4	玉島警察署 生活安全課	課長	河野 和佳	
5	浅口市小中学校長会	会長	三谷 貞女	
6	浅口商工会	会長	川上 正記	各種団体
7	浅口市農業委員会	会長	山下 康朗	
8	浅口市環境衛生協議会	会長	吉田 徳雄	
9	浅口市消費生活問題研究協議会	会長	石井 節子	
10	晴れの国岡山農業協同組合	理事	横山 芳彦	
11	寄島町漁業協同組合	代表理事 組合長	三宅 秀次郎	
12	金光町植木協同組合	代表理事	古城 富士夫	
13	アッケシソウを守る会	会長	藤澤 福夫	
14	岡山県地球温暖化防止活動推進 センター	推進員	鍋谷 和彦	

資料2 市民アンケート調査結果

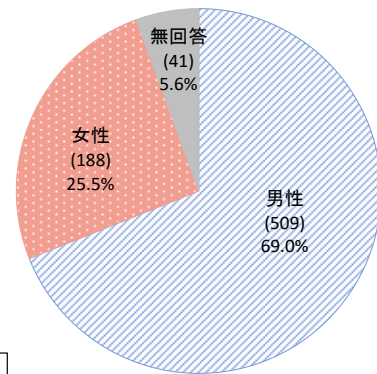
調査概要

調査対象	市内在住の18歳以上の男女1,500人 (住民基本台帳から無作為抽出)
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和3年11月1日～25日(12月9日まで延長)
回収結果	有効回収数：738件 有効回収率：49.2%

問1 あなたご自身のことについてお聞きします。(あてはまるものにそれぞれ1つだけ○)

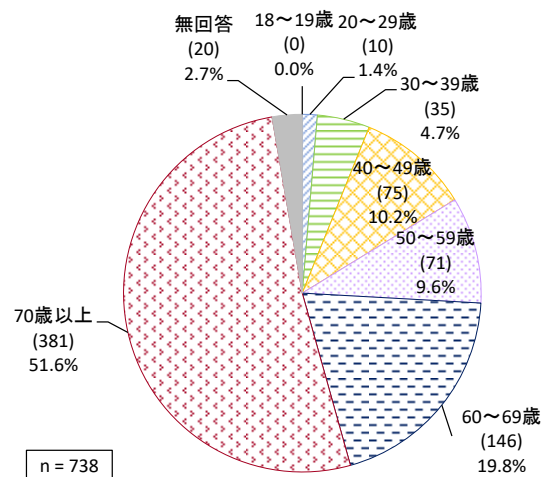
(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が69.0%で、「女性」が25.5%となっています。



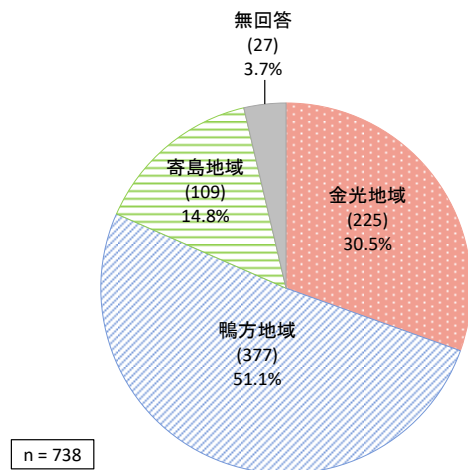
(2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳以上」が51.6%で最も高く、次いで「60～69歳」の19.8%、「40～49歳」の10.2%などとなっています。



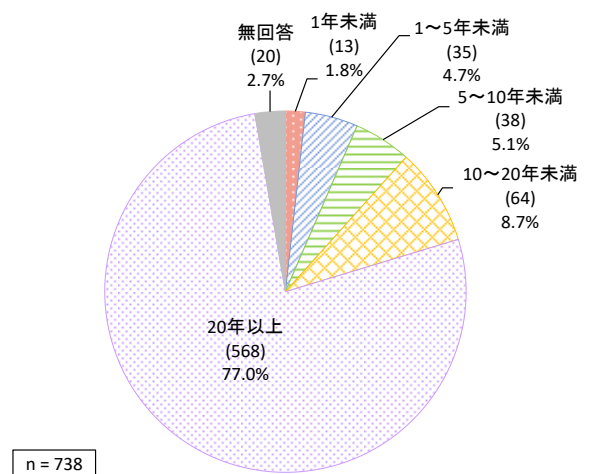
(3) 居住地域

回答者の居住地域は、「鴨方地域」が 51.1% で最も高く、次いで「金光地域」の 30.5%、「寄島地域」の 14.8%となっています。



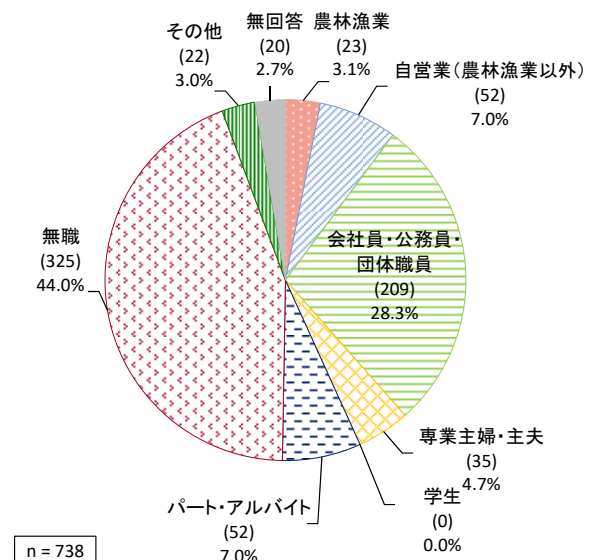
(4) 居住年数

回答者の浅口市での居住年数は、「20年以上」が 77.0% で最も高く、次いで「10~20年未満」の 8.7%、「5~10年未満」の 5.1%などとなっています。



(5) 職業

回答者の職業は、「無職」が 44.0% で最も高く、次いで「会社員・公務員・団体職員」の 28.3% などとなっています。



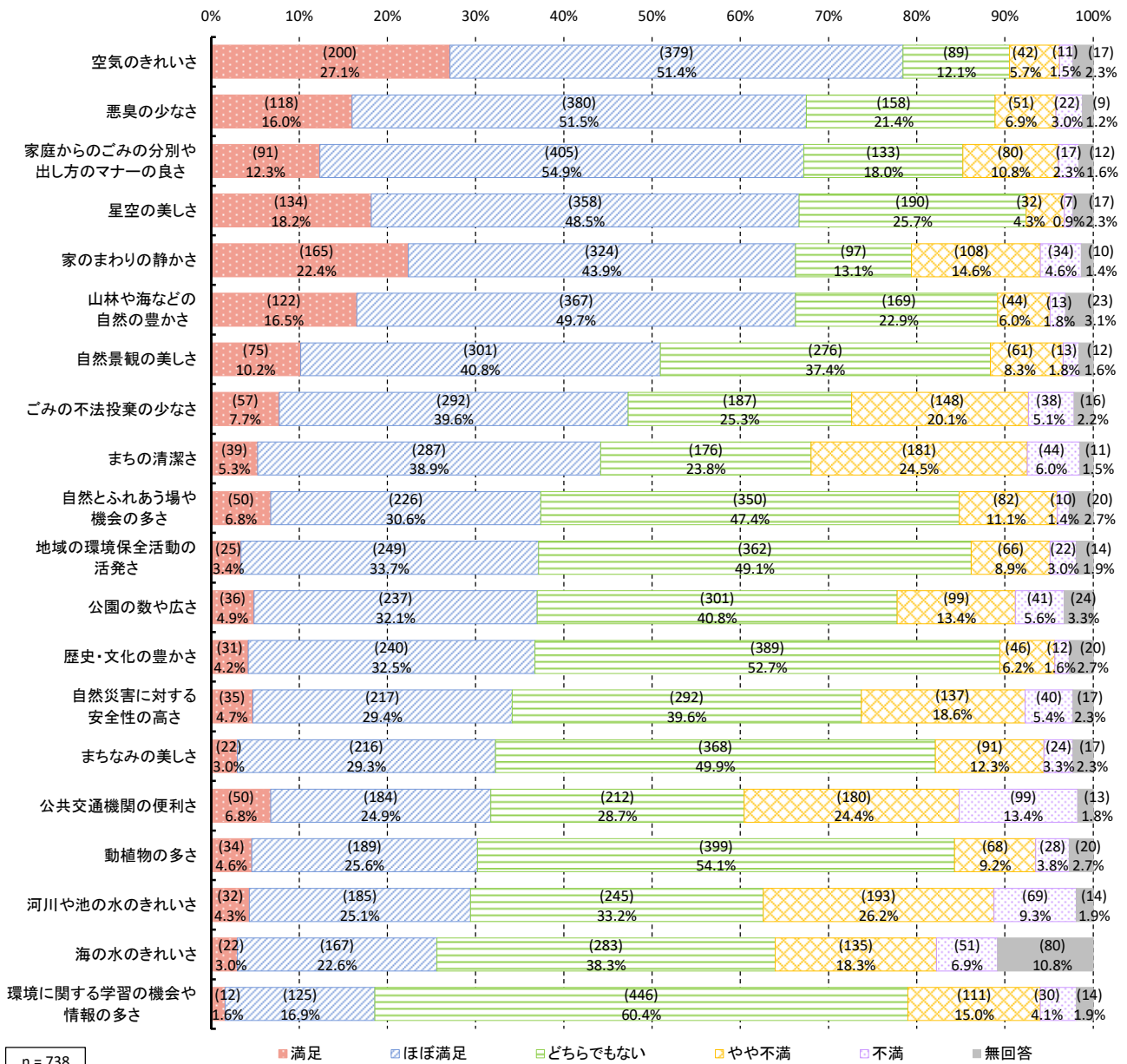
問 2

現在、あなたが住んでいる地域の環境に関する下記の項目について、どの程度満足されていますか。また、将来の浅口市全体の環境にとって、どの程度重要だと思いますか。（「満足度」、「重要度」の両方ではまるものにそれぞれ1つだけ○）

「満足」及び「ほぼ満足」と回答した者の割合は、「空気のきれいさ」が78.5%で最も高く、次いで「悪臭の少なさ」の67.5%、「家庭からのごみの分別や出し方のマナーの良さ」の67.2%などとなっています。

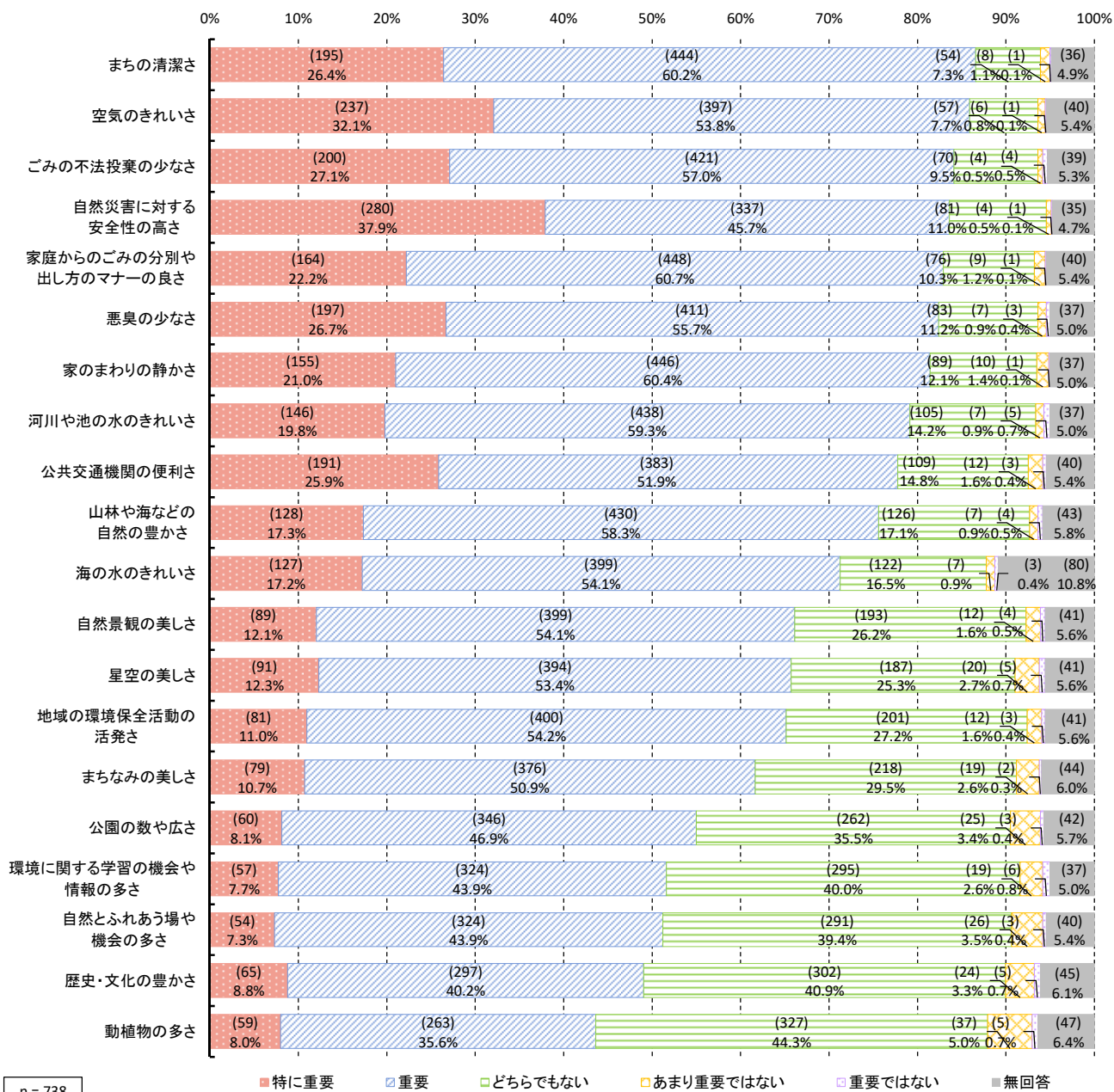
一方で、「不満」及び「やや不満」と回答した者の割合は、「公共交通機関の便利さ」が37.8%で最も高く、次いで「河川や池の水のきれいさ」の35.5%、「まちの清潔さ」の30.5%などとなっています。

満足度



次に、「特に重要」及び「重要」と回答した者の割合は、「まちの清潔さ」が86.6%で最も高く、次いで「空気のきれいさ」の85.9%、「ごみの不法投棄の少なさ」の84.1%などとなっています。一方で、「動植物の多さ」が43.6%で最も低く、次いで「歴史・文化の豊かさ」の49.0%、「自然とふれあう場や機会の多さ」の51.2%などとなっています。

重要度

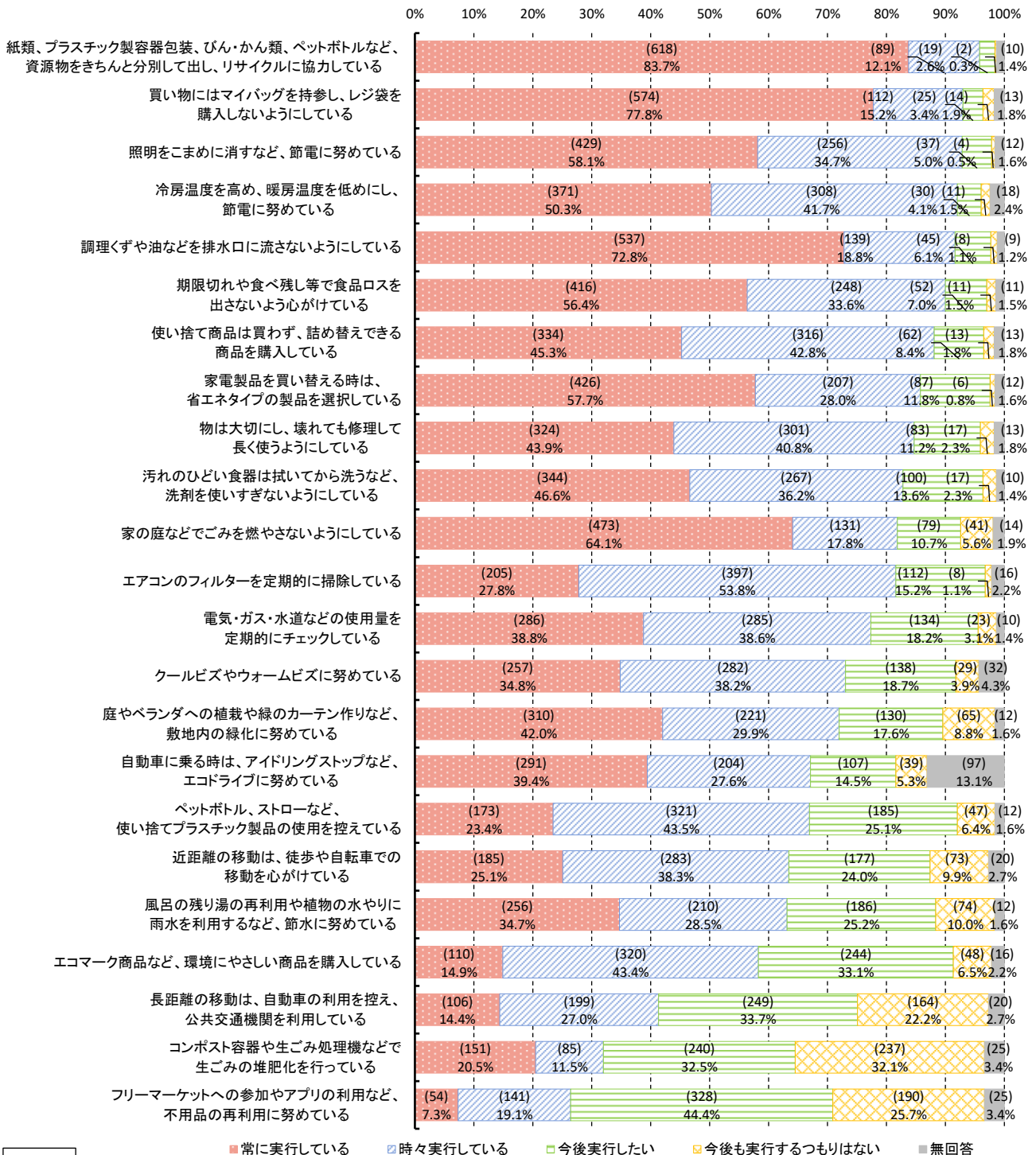


問3

あなたのご家庭では、日常生活で環境にやさしい行動をどの程度実行していますか。（あてはまるものにそれぞれ1つだけ○）

「常に実行している」及び「時々実行している」と回答した者の割合は、「紙類、プラスチック製容器包装、びん・かん類、ペットボトルなど、資源物をきちんと分別して出し、リサイクルに協力している」が95.8%で最も高く、次いで「買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋を購入しないようにしている」の93.0%などとなっています。

一方で、「今後も実行するつもりはない」と回答した者の割合は、「コンポスト容器や生ごみ処理機などで生ごみの堆肥化を行っている」が32.1%で最も高く、次いで「フリーマーケットへの参加やアプリの利用など、不用品の再利用に努めている」の25.7%などとなっています。

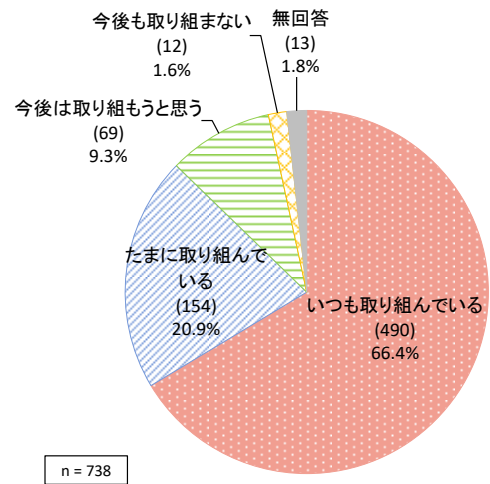


n = 738

問 4

もえるごみの約 4 割を生ごみが占め、生ごみのうち約 7 割から 8 割が水分であると言われています。そのため、ごみを出す前に、水切りをするだけで、ごみの減量に大きな効果があります。あなたは、生ごみの水切りに取り組んでいますか。（あてはまるものに 1 つだけ○）

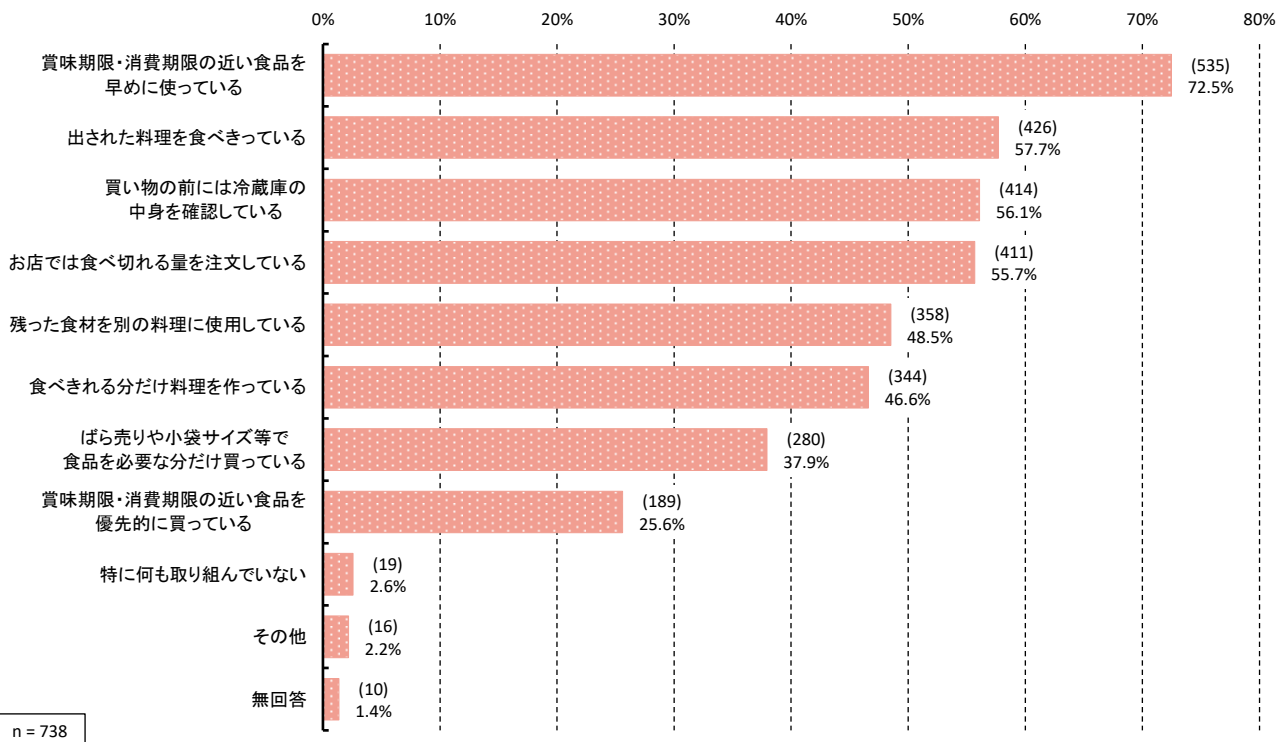
回答者の割合は、「いつも取り組んでいる」が 66.4%で最も高く、「たまに取り組んでいる」の割合を合わせると 9 割程度となっています。



問 5

あなたは、「食品ロス」を出さないために何か取り組んでいますか。（あてはまるものにすべて○）

回答者の割合は、「賞味期限・消費期限の近い食品を早めに使っている」が 72.5%で最も高く、次いで「出された料理を食べきっている」の 57.7%、「買い物の前には冷蔵庫の中身を確認している」の 56.1%、「お店では食べ切れる量を注文している」の 55.7%などとなっています。

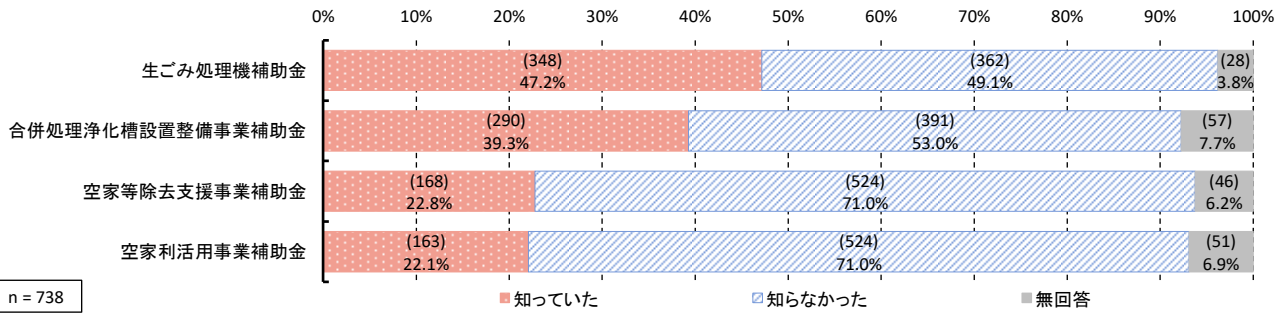


問 6

浅口市では、環境保全に関する取組への補助を行っています。あなたは知っていましたか。また、活用したことはありますか。（「認知度」、「活用経験」の両方であてはまるものにそれぞれ1つだけ○）

「知っていた」と回答した者の割合は、「生ごみ処理機補助金」が47.2%で最も高く、次いで「合併処理浄化槽設置整備事業補助金」の39.3%などとなっています。

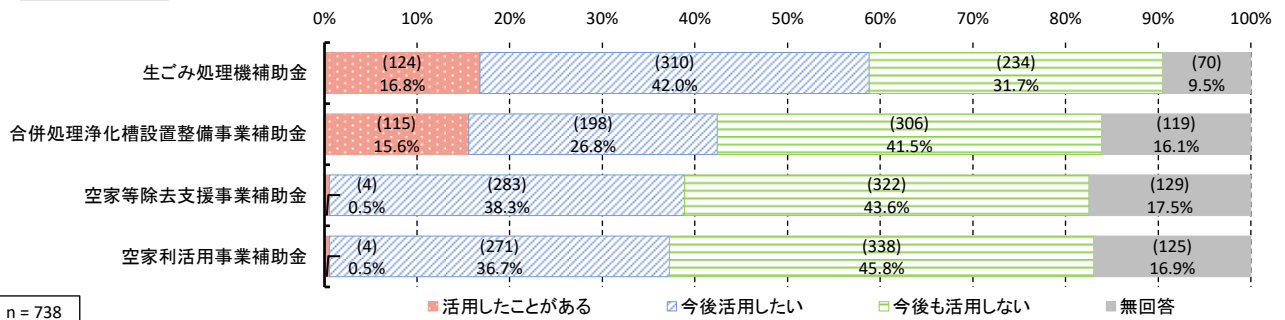
認知度



次に、「活用したことがある」と回答した者の割合は、「生ごみ処理機補助金」が16.8%で最も高く、次いで「合併処理浄化槽設置整備事業補助金」の15.6%などとなっています。

また、「今後活用したい」と回答した者の割合は、「生ごみ処理機補助金」が42.0%で最も高く、次いで「空家等除去支援事業補助金」の38.3%、「空家利活用事業補助金」の36.7%などとなっています。

活用経験

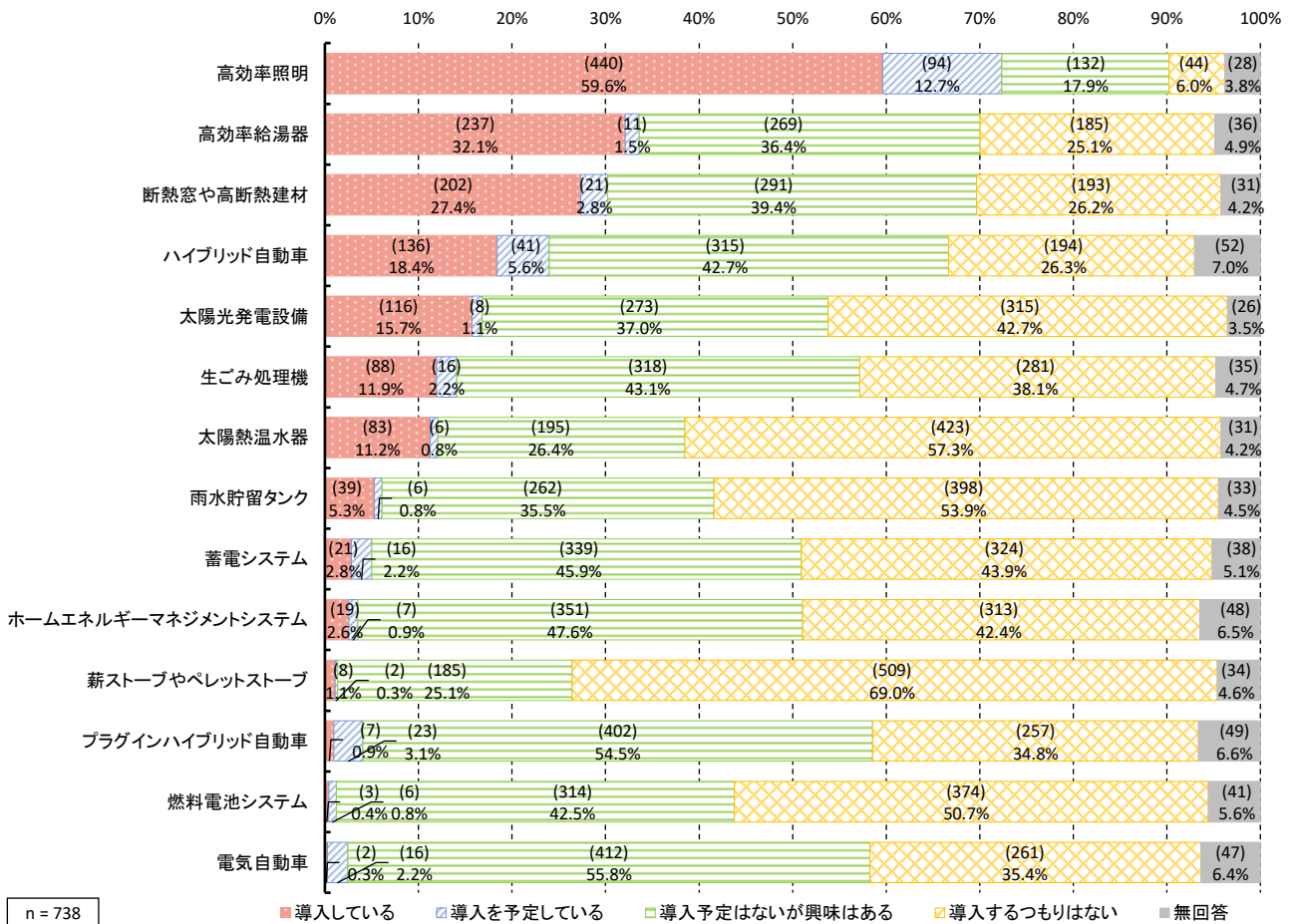


問 7

地球温暖化の主な要因は、二酸化炭素やメタンといった大気中の温室効果ガスであるといわれています。あなたのご家庭では、地球温暖化防止につながる再生可能エネルギー設備や省エネルギー設備など、環境保全に関する設備を導入していますか。（あてはまるものにそれぞれ1つだけ○）

「導入している」と回答した者の割合は、「高効率照明」が59.6%で最も高く、次いで「高効率給湯器」の32.1%、「断熱窓や高断熱建材」の27.4%、「ハイブリッド自動車」の18.4%などとなっています。

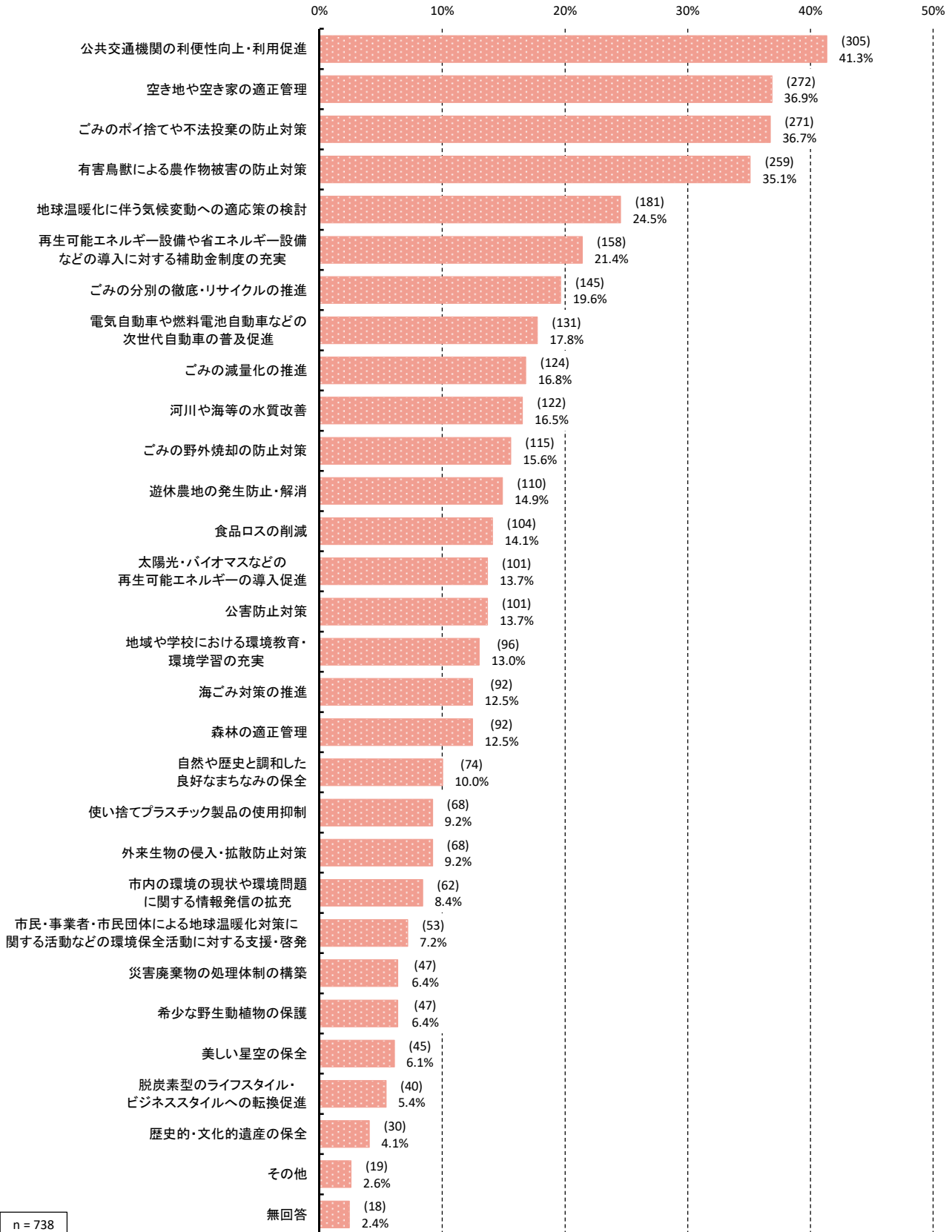
また、「導入予定はないが興味はある」と回答した者の割合は、「電気自動車」が55.8%で最も高く、次いで「プラグインハイブリッド自動車」の54.5%、「ホームエネルギーマネジメントシステム」の47.6%などとなっています。



問 8

あなたは、浅口市が重点的に今後進めるべき取り組みはどれだと思いますか。（あてはまるものに5つまで○）

回答者の割合は、「公共交通機関の利便性向上・利用促進」が41.3%で最も高く、次いで「空き地や空き家の適正管理」の36.9%、「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策」の36.7%、「有害鳥獣による農作物被害の防止対策」の35.1%などとなっています。



n = 738

資料3 中学生アンケート調査結果

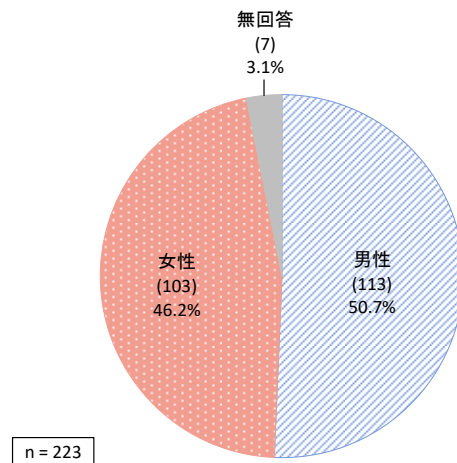
調査概要

調査対象	市内の中学2年生
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和3年11月
回収結果	有効回収数：223件

問1 あなたご自身のことについてお聞きます。(あてはまるものにそれぞれ1つだけ○)

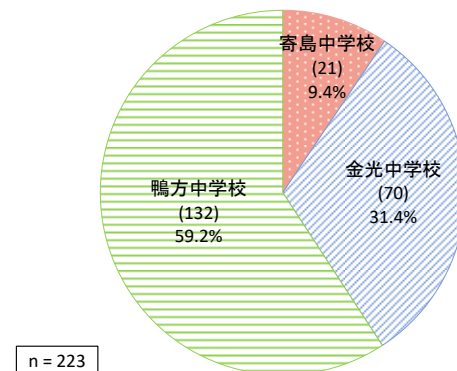
(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が50.7%で、「女性」が46.2%となっています。



(2) 中学校

回答者の中学校は、「鴨方中学校」が59.2%で最も高く、次いで「金光中学校」の31.4%、「寄島中学校」の9.4%となっています。



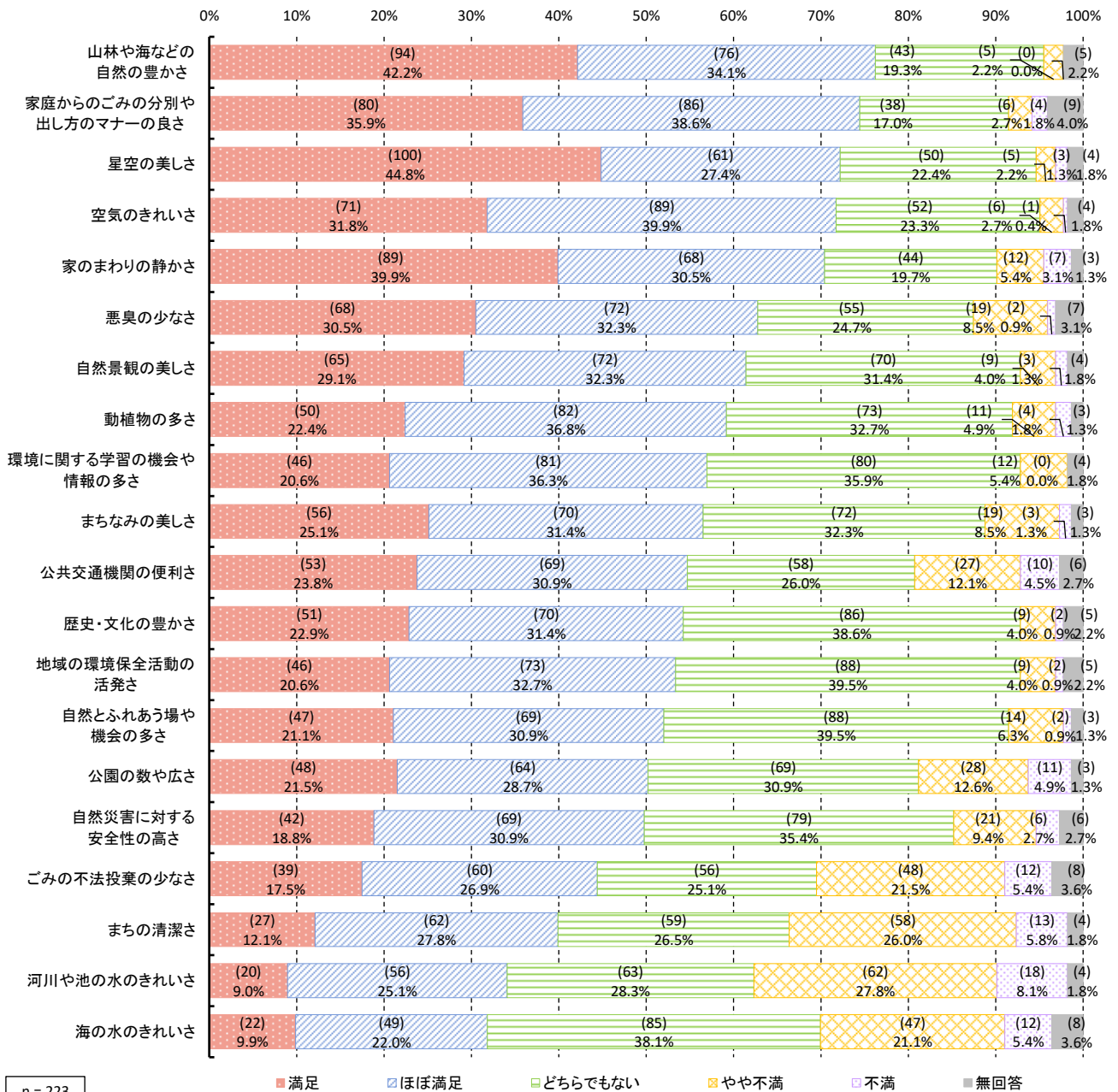
問 2

現在、あなたが住んでいる地域の環境に関する下記の項目について、どの程度満足されていますか。また、将来の浅口市全体の環境にとって、どの程度重要だと思いますか。（「満足度」、「重要度」の両方ではまるものにそれぞれ1つだけ○）

「満足」及び「ほぼ満足」と回答した者の割合は、「山林や海などの自然の豊かさ」が76.3%で最も高く、次いで「家庭からのごみの分別や出し方のマナーの良さ」の74.5%、「星空の美しさ」の72.2%などとなっています。

一方で、「不満」及び「やや不満」と回答した者の割合は、「河川や池の水のきれいさ」が35.9%で最も高く、次いで「まちの清潔さ」の31.8%、「ごみの不法投棄の少なさ」の26.9%などとなっています。

満足度

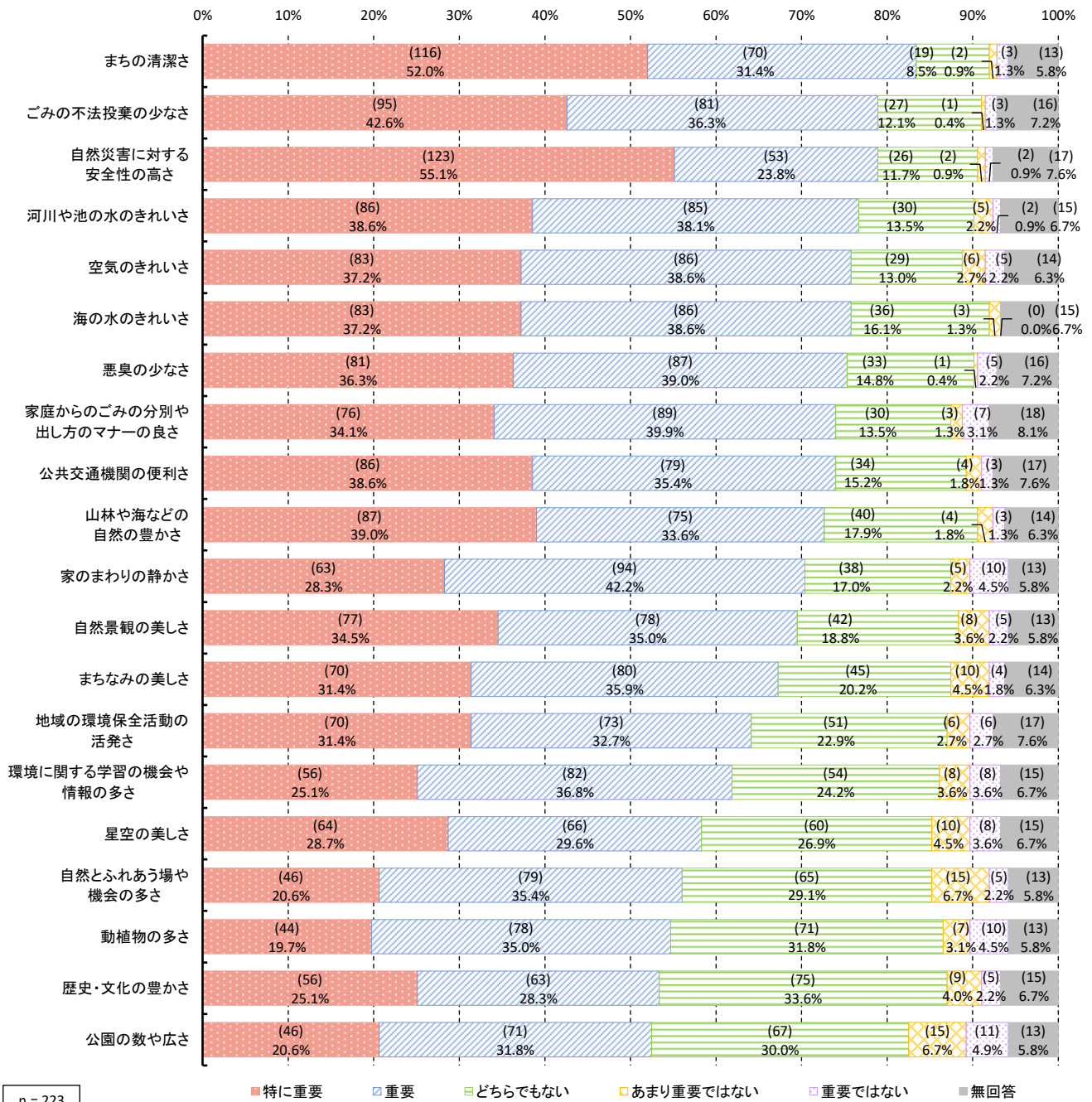


n = 223

次に、「特に重要」及び「重要」と回答した者の割合は、「まちの清潔さ」が83.4%で最も高く、次いで「ごみの不法投棄の少なさ」及び「自然災害に対する安全性の高さ」の78.9%などとなっています。

一方で、「公園の数や広さ」が52.4%で最も低く、次いで「歴史・文化の豊かさ」の53.4%、「動植物の多さ」の54.7%などとなっています。

重要度

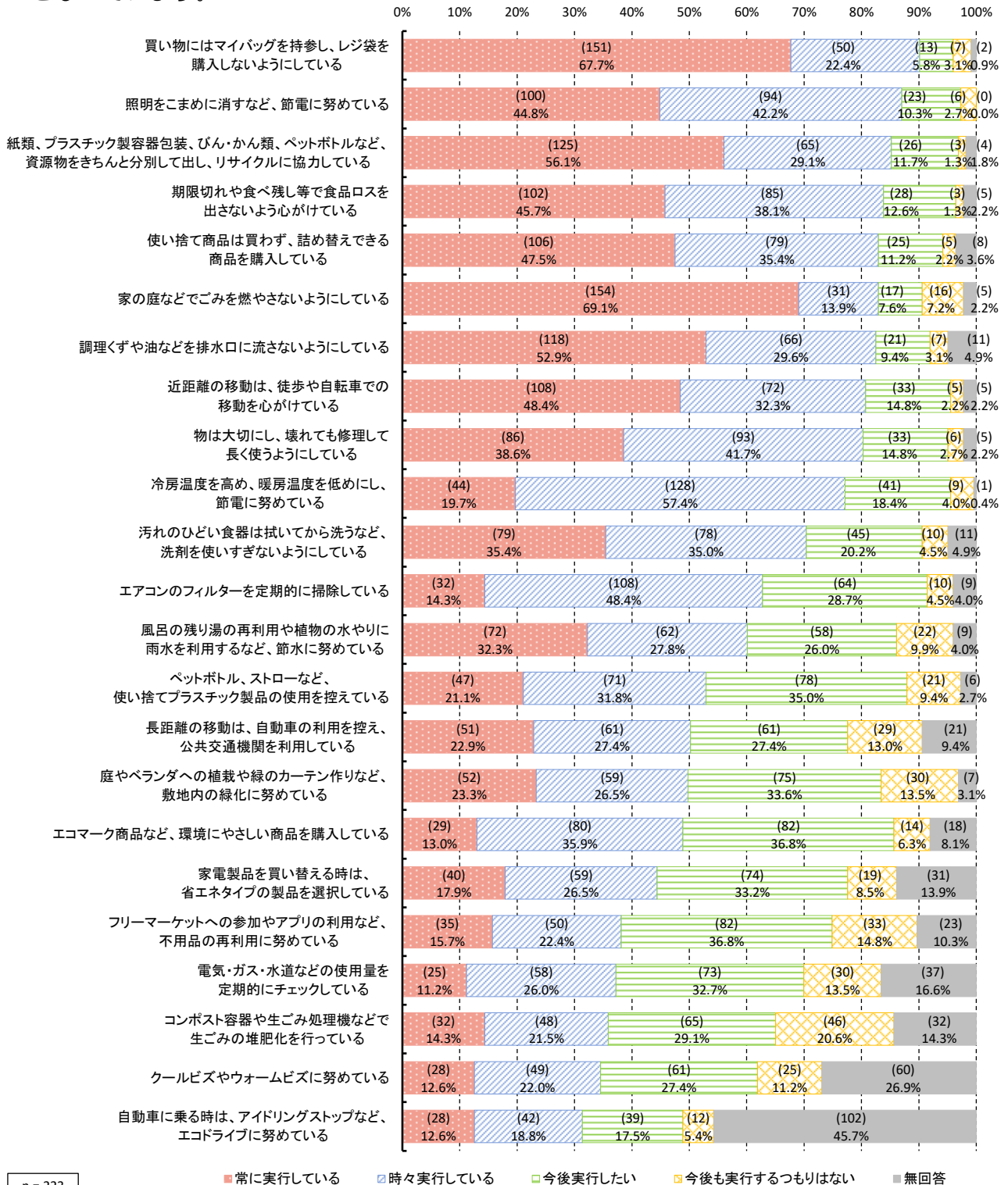


問3

あなたのご家庭では、日常生活で環境にやさしい行動をどの程度実行していますか。（あてはまるものにそれぞれ1つだけ○）

「常に実行している」及び「時々実行している」と回答した者の割合は、「買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋を購入しないようにしている」が90.1%で最も高く、次いで「照明をこまめに消すなど、節電に努めている」の87.0%などとなっています。

一方で、「今後も実行するつもりはない」と回答した者の割合は、「コンポスト容器や生ごみ処理機などで生ごみの堆肥化を行っている」が20.6%で最も高く、次いで「フリーマーケットへの参加やアプリの利用など、不用品の再利用に努めている」の14.8%などとなっています。

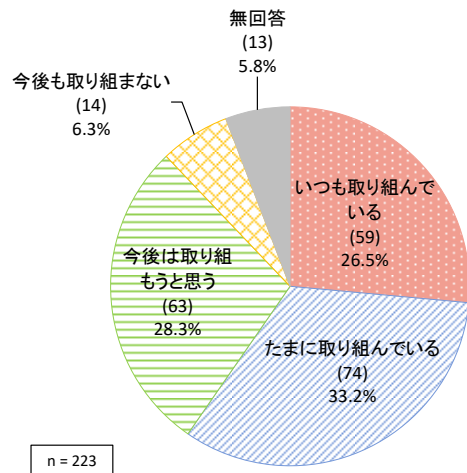


n = 223

問 4

もえるごみの約 4 割を生ごみが占め、生ごみのうち約 7 割から 8 割が水分であると言われています。そのため、ごみを出す前に、水切りをするだけで、ごみの減量に大きな効果があります。あなたは、生ごみの水切りに取り組んでいますか。（あてはまるものに 1 つだけ○）

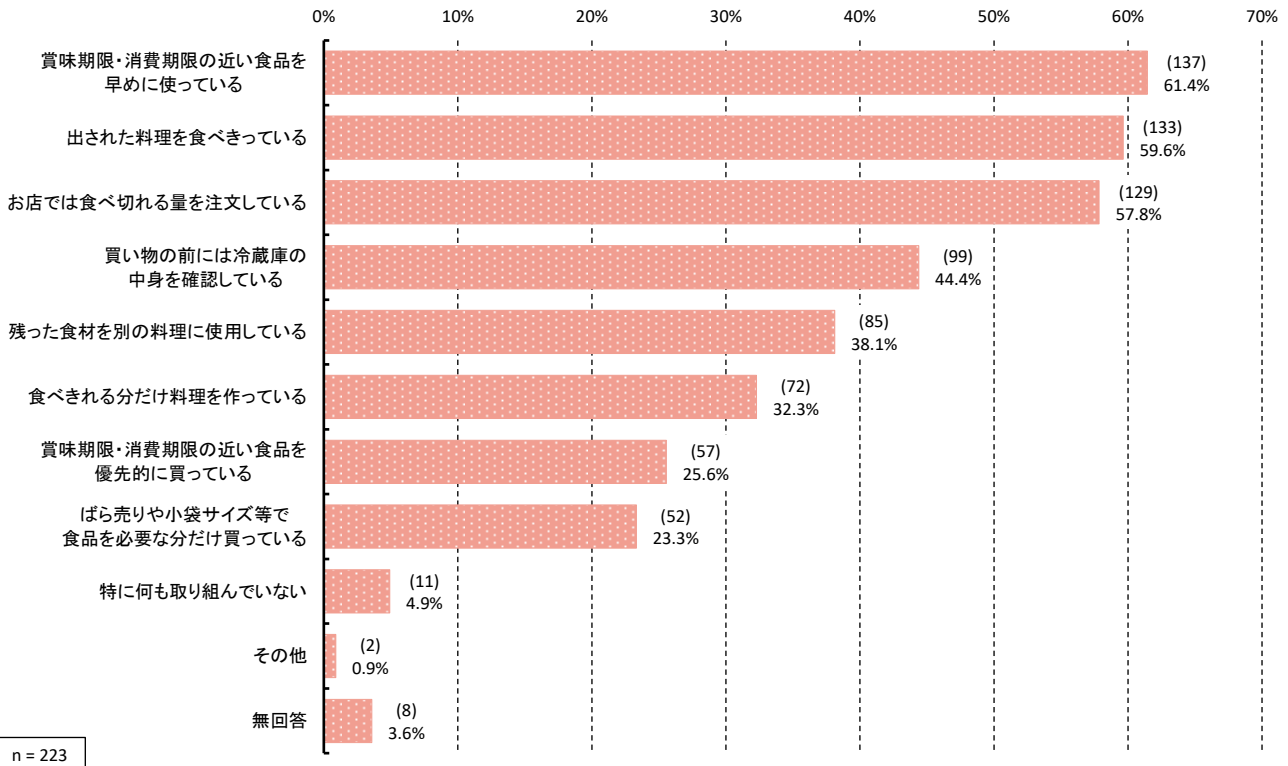
回答者の割合は、「たまに取り組んでいる」が 33.2%で最も高く、「いつも取り組んでいる」の割合を合わせると 6 割程度となっています。



問 5

あなたは、「食品ロス」を出さないために何か取り組んでいますか。（あてはまるものにすべて○）

回答者の割合は、「賞味期限・消費期限の近い食品を早めに使っている」が 61.4%で最も高く、次いで「出された料理を食べきっている」の 59.6%、「お店では食べ切れる量を注文している」の 57.8%などとなっています。

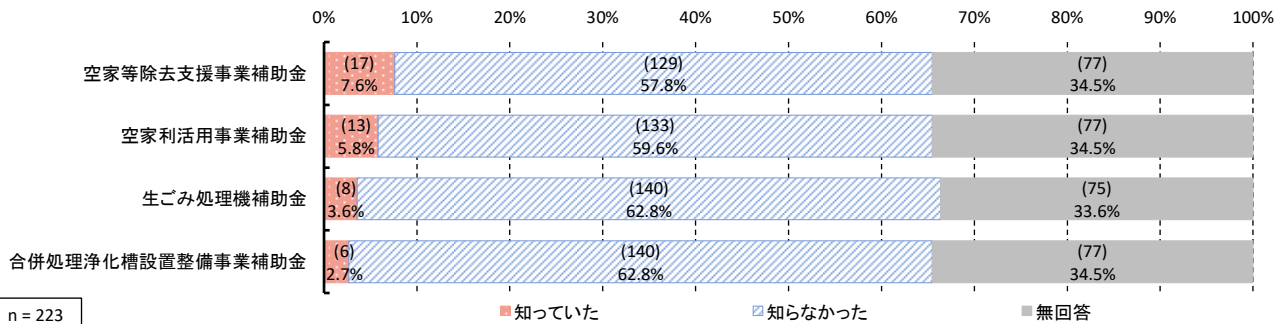


問 6

浅口市では、環境保全に関する取組への補助を行っています。あなたは知っていましたか。また、活用したことはありますか。（「認知度」、「活用経験」の両方ではまるものにそれぞれ1つだけ○）

「知っていた」と回答した者の割合は、「空家等除去支援事業補助金」が7.6%で最も高く、次いで「空家利活用事業補助金」の5.8%などとなっています。

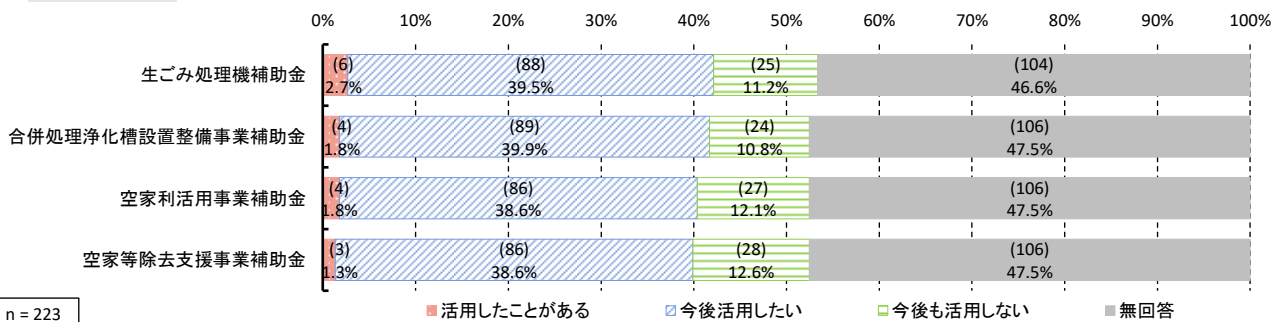
認知度



次に、「活用したことがある」と回答した者の割合は、「生ごみ処理機補助金」が2.7%で最も高く、次いで「合併処理浄化槽設置整備事業補助金」及び「空家利活用事業補助金」の1.8%などとなっています。

また、「今後活用したい」と回答した者の割合は、「合併処理浄化槽設置整備事業補助金」が39.9%で最も高く、次いで「生ごみ処理機補助金」の39.5%などとなっています。

活用経験

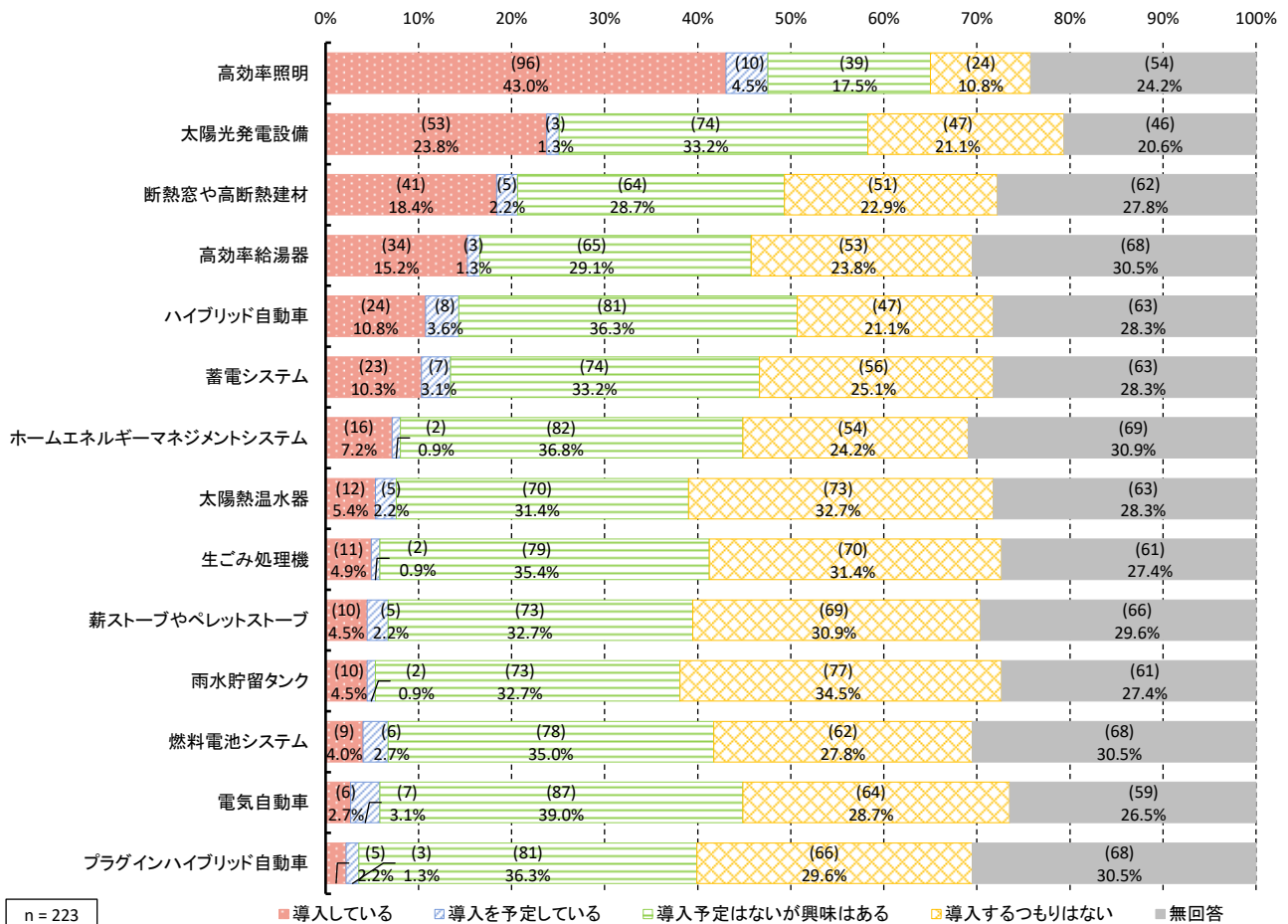


問 7

地球温暖化の主な要因は、二酸化炭素やメタンといった大気中の温室効果ガスであるといわれています。あなたのご家庭では、地球温暖化防止につながる再生可能エネルギー設備や省エネルギー設備など、環境保全に関する設備を導入していますか。（あてはまるものにそれぞれ1つだけ○）

「導入している」と回答した者の割合は、「高効率照明」が43.0%で最も高く、次いで「太陽光発電設備」の23.8%、「断熱窓や高断熱建材」の18.4%、「高効率給湯器」の15.2%などとなっています。

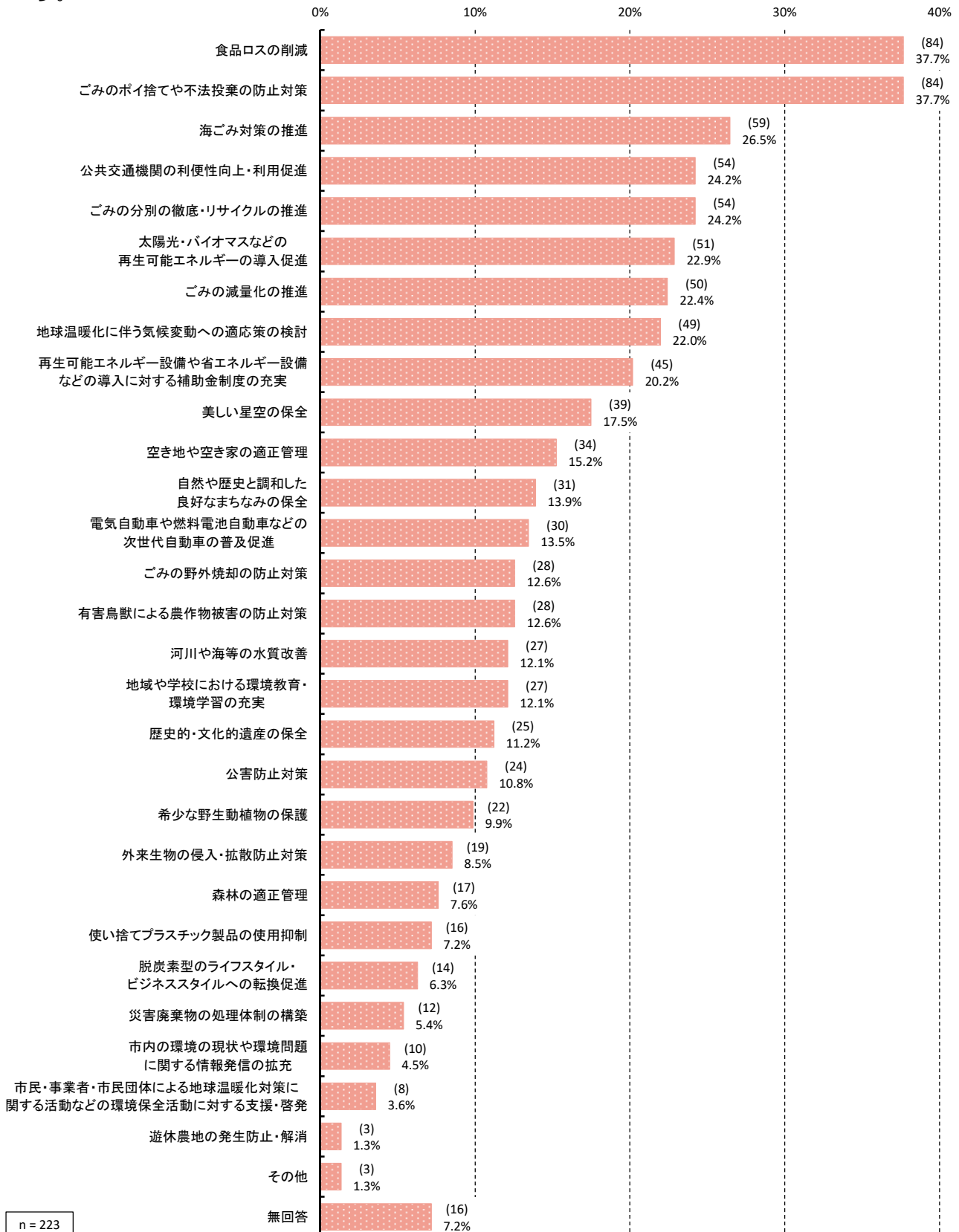
また、「導入予定はないが興味はある」と回答した者の割合は、「電気自動車」が39.0%で最も高く、次いで「ホームエネルギーマネジメントシステム」の36.8%、「ハイブリッド自動車」及び「プラグインハイブリッド自動車」の36.3%などとなっています。



問 8

あなたは、浅口市が重点的に今後進めるべき取り組みはどれだと思いますか。（あてはまるものに5つまで○）

回答者の割合は、「食品ロスの削減」及び「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策」が37.7%で最も高く、次いで「海ごみ対策の推進」の26.5%、「公共交通機関の利便性向上・利用促進」及び「ごみの分別の徹底・リサイクルの推進」の24.2%などとなっています。



n = 223

資料4 事業所アンケート調査結果

調査概要

調査対象	市内で事業活動を行っている100事業所（無作為抽出）
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	令和3年11月1日～25日（12月9日まで延長）
回収結果	有効回収数：61件 有効回収率：61.0%

問1 貴事業所のことについてお聞きます。（あてはまるものにそれぞれ1つだけ○）

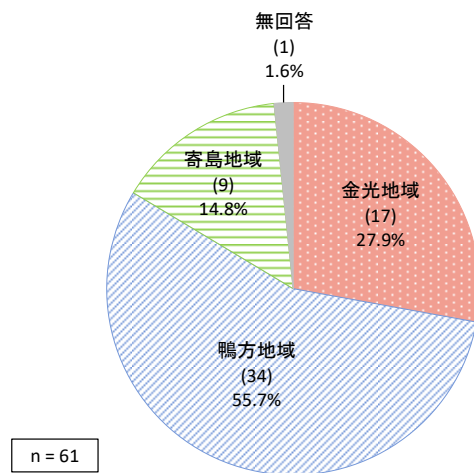
（1）業種

回答事業所の業種は、「製造業」が27.9%で最も高く、次いで「卸売・小売業」の23.0%、「サービス業（他に分類されないもの）」の19.7%などとなっています。

居住地区	回答数	回答割合
農林漁業	1	1.6%
建設業	7	11.5%
製造業	17	27.9%
情報通信業	0	0.0%
運輸業	2	3.3%
卸売・小売業	14	23.0%
金融・保険業	1	1.6%
不動産業	1	1.6%
飲食店、宿泊業	2	3.3%
医療、福祉	2	3.3%
教育、学習支援業	0	0.0%
複合サービス事業	0	0.0%
サービス業（他に分類されないもの）	12	19.7%
その他	1	1.6%
無回答	1	1.6%
合計	61	100%

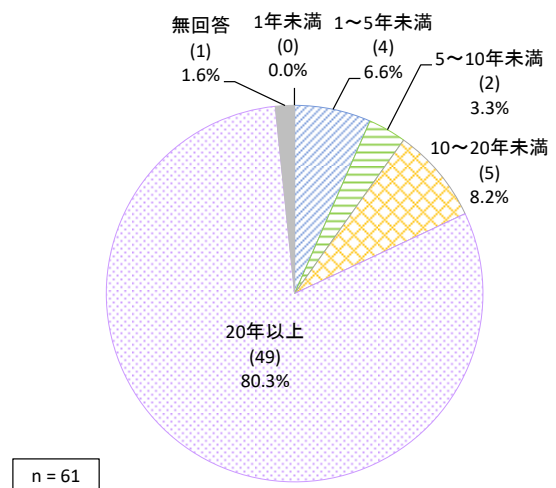
(2) 所在地域

回答事業所の所在地域は、「鴨方地域」が55.7%で最も高く、次いで「金光地域」の27.9%、「寄島地域」の14.8%などとなっています。



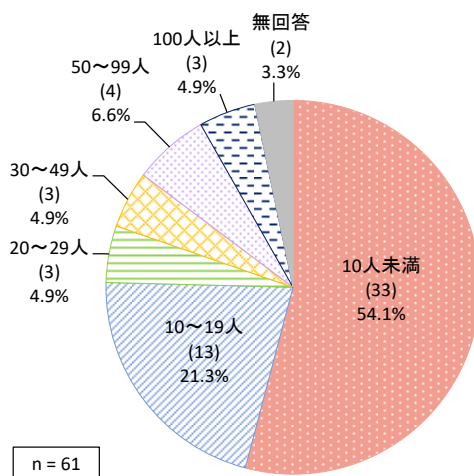
(3) 事業年数

回答事業所の事業年数は、「20年以上」が80.3%で最も高く、次いで「10～20年未満」の8.2%、「1～5年未満」の6.6%などとなっています。



(4) 従業員数

回答事業所の従業員数は、「10人未満」が54.1%で最も高く、次いで「10～19人」の21.3%、「50～99人」の6.6%などとなっています。

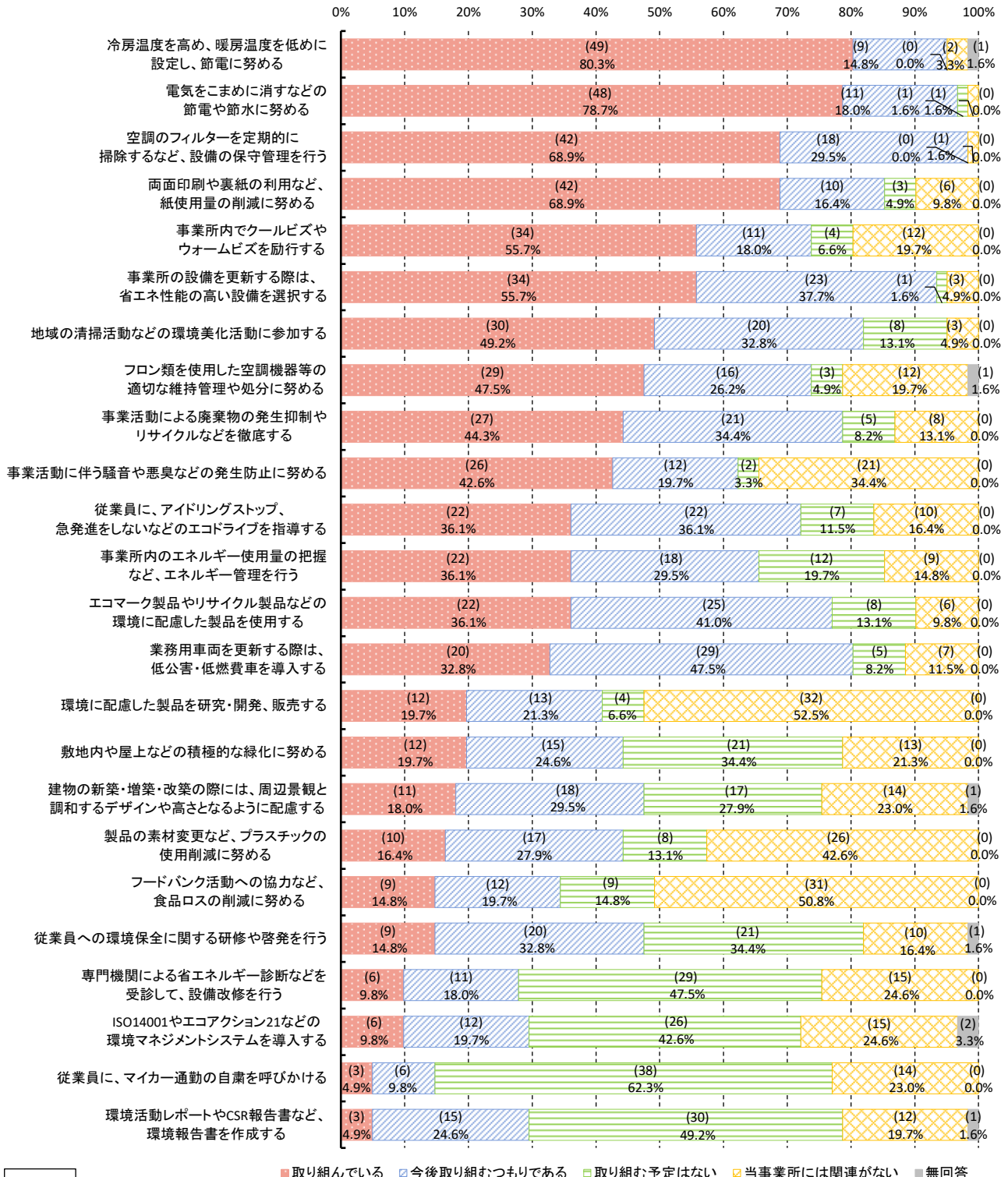


問 2

貴事業所では、環境に配慮した事業活動にどの程度取り組んでいますか。（あてはまるものにそれぞれ1つだけ○）

「取り組んでいる」と回答した事業所の割合は、「冷房温度を高め、暖房温度を低めに設定し、節電に努める」が80.3%で最も高く、次いで「電気をこまめに消すなどの節電や節水に努める」の78.7%などとなっています。

一方で、「取り組む予定はない」と回答した事業所の割合は、「従業員に、マイカー通勤の自粛を呼びかける」が62.3%で最も高く、次いで「環境活動レポートやCSR報告書など、環境報告書を作成する」の49.2%などとなっています。

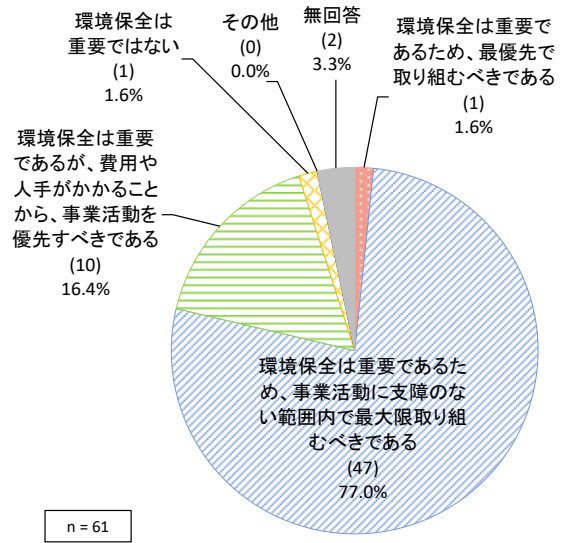


n = 61

問3

貴事業所では、環境保全に取り組むことについて、どのようにお考えですか。（あてはまるものに1つだけ○）

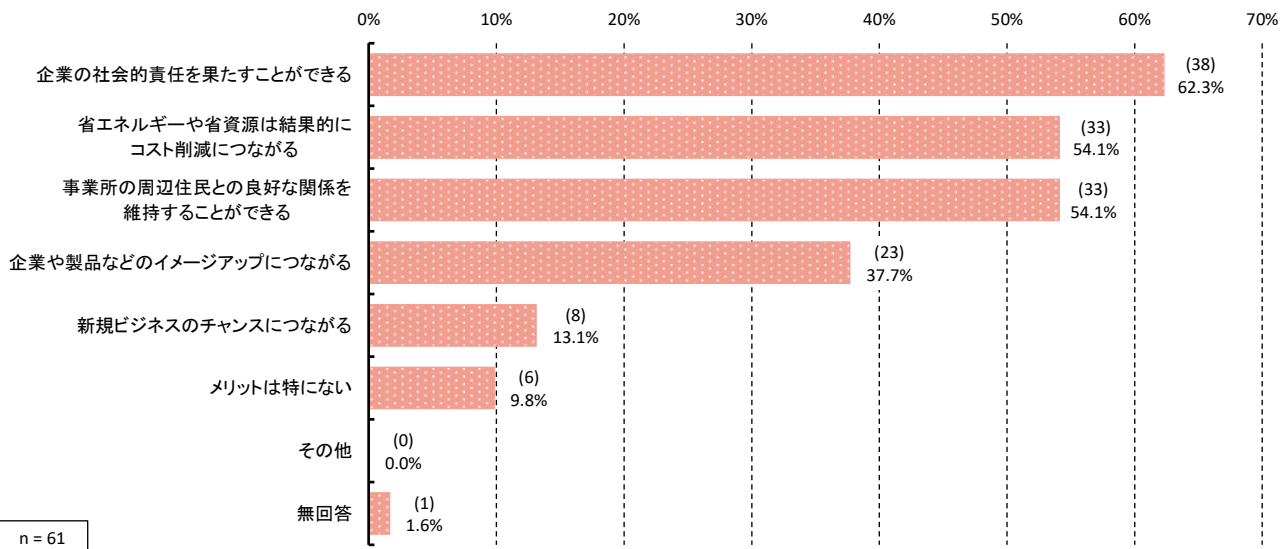
回答事業所の割合は、「環境保全は重要であるため、事業活動に支障のない範囲内で最大限取り組むべきである」が77.0%で最も高く、次いで「環境保全は重要であるが、費用や人手がかかることから、事業活動を優先すべきである」の16.4%などとなっています。



問4

貴事業所では、環境保全に取り組むことによるメリットについて、どのようにお考えですか。（あてはまるものにすべて○）

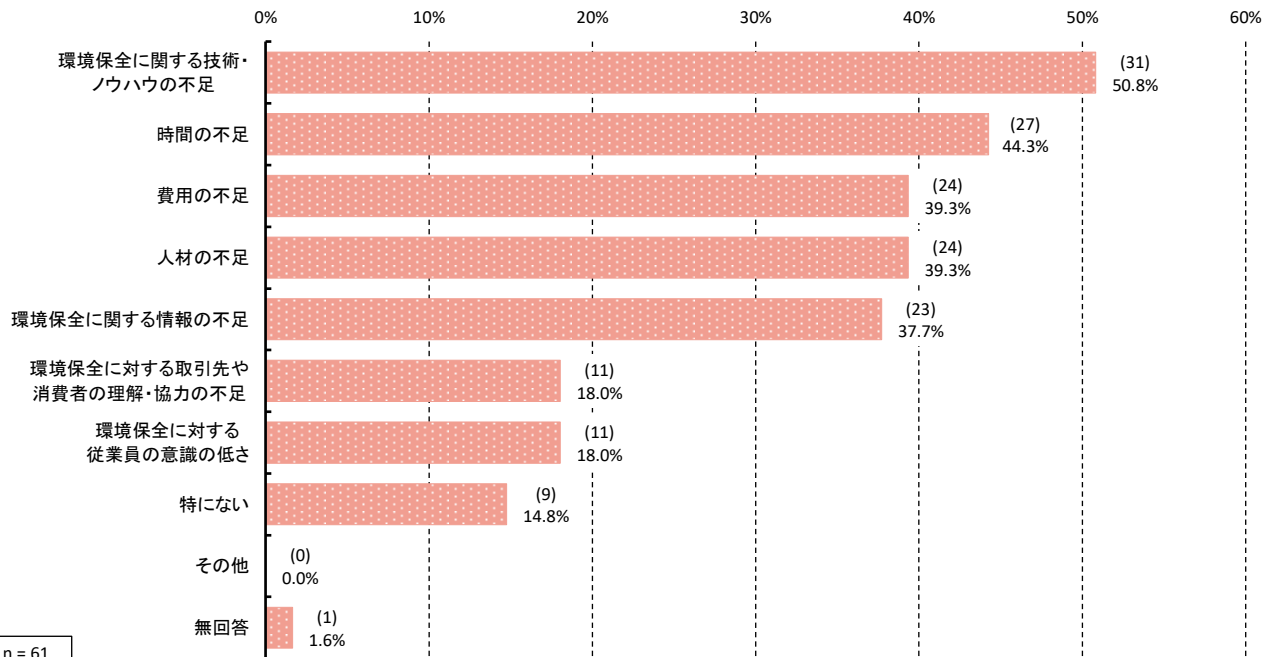
回答事業所の割合は、「企業の社会的責任を果たすことができる」が62.3%で最も高く、次いで「省エネルギーや省資源は結果的にコスト削減につながる」及び「事業所の周辺住民との良好な関係を維持することができる」の54.1%などとなっています。



問5

貴事業所が、環境保全に取り組む上で、どのようなことが課題になっていますか。（あてはまるものにすべて○）

回答事業所の割合は、「環境保全に関する技術・ノウハウの不足」が50.8%で最も高く、次いで「時間の不足」の44.3%、「費用の不足」及び「人材の不足」の39.3%、「環境保全に関する情報の不足」の37.7%などとなっています。



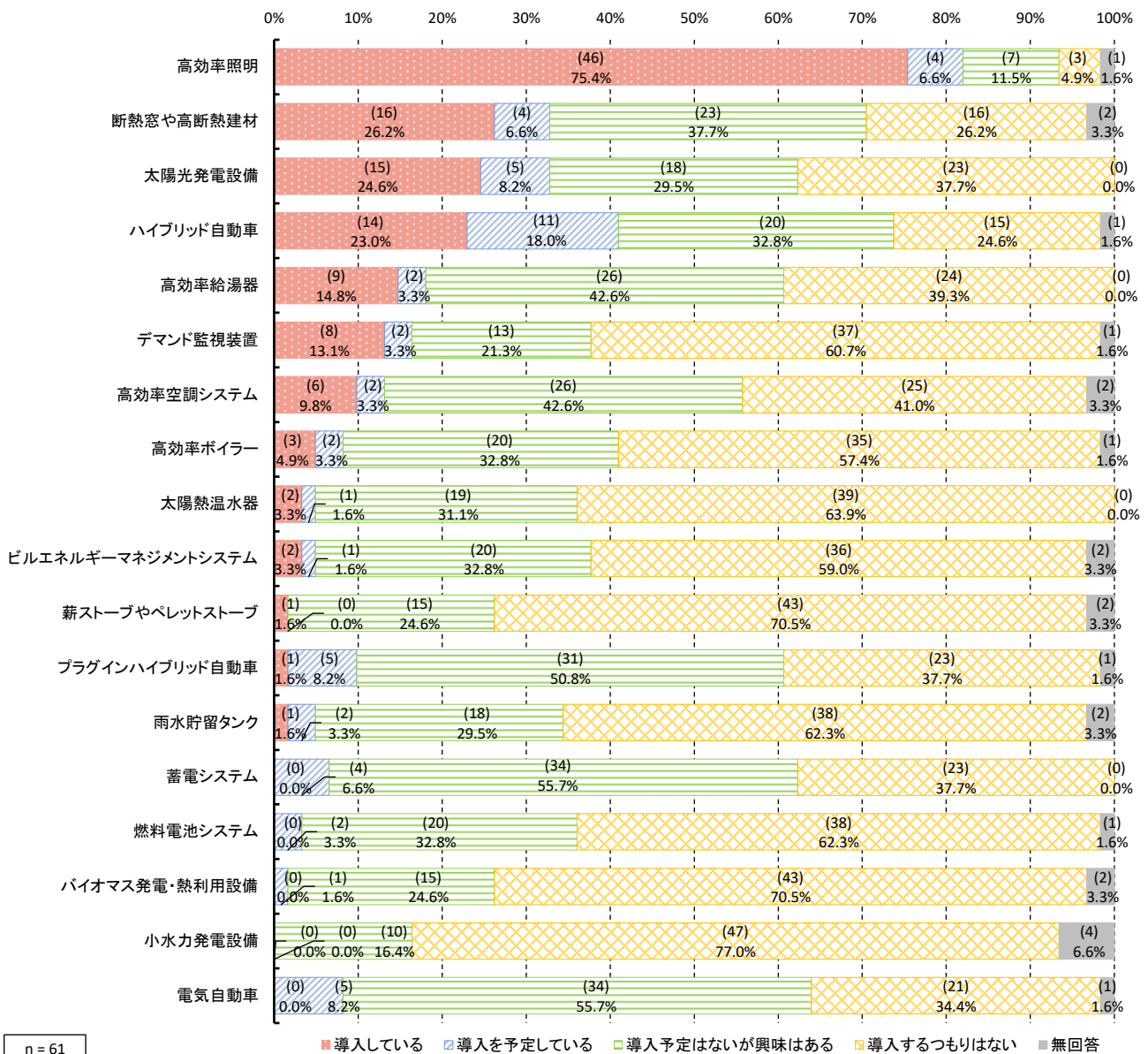
n = 61

問 6

貴事業所では、地球温暖化防止につながる再生可能エネルギー設備や省エネルギー設備など、環境保全に関する設備を利用していますか。(あてはまるものにそれぞれ1つだけ○)

「導入している」と回答した事業所の割合は、「高効率照明」が75.4%で最も高く、次いで「断熱窓や高断熱建材」の26.2%、「太陽光発電設備」の24.6%、「ハイブリッド自動車」の23.0%などとなっています。

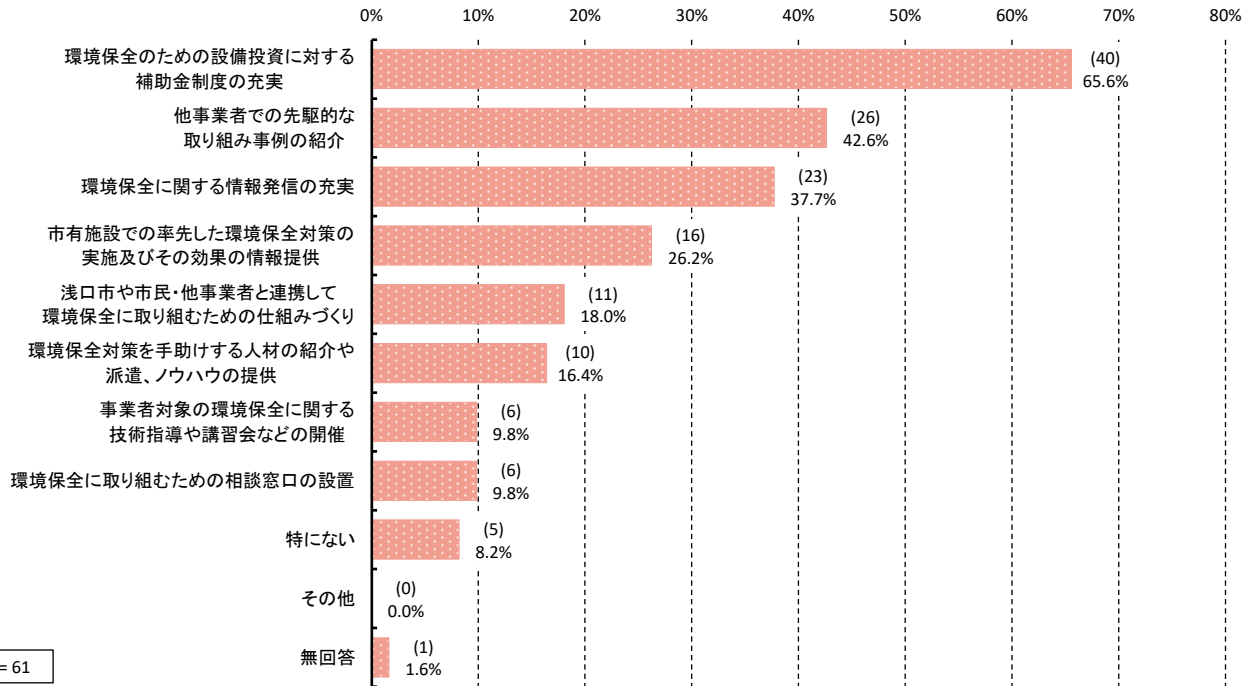
また、「導入予定はないが興味はある」と回答した事業所の割合は、「蓄電システム」及び「電気自動車」が55.7%で最も高く、次いで「プラグインハイブリッド自動車」の50.8%などとなっています。



問 7

貴事業所が、環境保全に取り組んでいくために、浅口市に今後期待する支援等がありますか。(あてはまるものに3つまで○)

回答事業所の割合は、「環境保全のための設備投資に対する補助金制度の充実」が65.6%で最も高く、次いで「他事業者での先駆的な取り組み事例の紹介」の42.6%、「環境保全に関する情報発信の充実」の37.7%などとなっています。



■ あ行

空き家情報バンク

市内の居住可能な空き家を登録し、空き家を買いたい（借りたい）人に情報提供する制度。

アスベスト

石綿（イシワタ又はセキメン）ともいわれ、天然に産する鉱物繊維。耐熱性、耐薬品性、絶縁性等の諸特性に優れているため、建設資材、電気製品、自動車など、多くの用途で使用されてきたが、発がん性物質であることが判明し、平成18年9月から原則全面使用禁止となった。

ウォームビズ

地球温暖化防止の一環として、秋冬のオフィスの暖房設定温度を省エネ温度にし、暖かい服装を着用する秋冬のビジネススタイル。

うちエコ診断

国の資格認定を受けた診断士が、環境省が作成した専用ソフトを使用して、家庭の年間エネルギー使用量や光熱水費等の情報を基に、住まいの気候やライフスタイルに合わせた省エネ対策を提案する診断。

エコドライブ

二酸化炭素や大気汚染物質の排出削減のための環境に配慮した運転方法。具体的には、アイドリングストップをする、急発進・急加速・急ブレーキをやめる、渋滞等をまねく違法駐車はしない、エアコンの使用を控えめにするなどが挙げられる。

温室効果ガス

大気を構成する気体であって、赤外線を吸収し再放出する気体。「地球温暖化対策の推進に関する法律」では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素の7種類が定められている。

■ が行

合併処理浄化槽

し尿と生活排水（台所、風呂、洗濯等に使用した水）を戸別にまとめて処理する浄化槽。し尿のみを処理する単独浄化槽に比べて、河川等の汚濁を軽減する効果がある。

カーボンニュートラル

二酸化炭素等の温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成し、温室効果ガス排出量が実質ゼロとなること。

環境基準

「環境基本法」に基づいて定められた、人の健康の保護及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準。

規制基準

法律又は条例に基づいて定められた公害の原因となる行為を規制するための基準。工場等はこの基準を守る義務が課せられている。

グリーンインフラ

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する様々な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組。

クールビズ

地球温暖化防止の一環として、夏のオフィスの冷房設定温度を省エネ温度にし、それに応じて軽装化するビジネススタイル。

光化学オキシダント

工場や自動車等から排出される、大気汚染物質が太陽の紫外線を受けて反応することにより生成されるオゾン等の酸化性物質の総称。粘膜への刺激、呼吸器への影響といった健康影響のほか、農作物等の植物へも影響を及ぼす。

荒廃農地

現に耕作に供されておらず、耕作の放棄により荒廃し、通常の農作業では作物の栽培が客観的に不可能となっている農地。

固定価格買取制度

再生可能エネルギー源（太陽光・風力・水力（3万kW未満）・地熱・バイオマス）を用いて発電された電気を、一定期間、国が定める価格により電気事業者が買い取ることを義務付けた制度。電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法に基づくもの。電気事業者が買取りに要した費用は、電気料金の一部として、国民が負担する賦課金によって賄われる。

コンポスト

家庭から出る生ごみ等の有機物を微生物の働き等で発酵させ、堆肥化する容器。

■さ行

再生可能エネルギー

永続的に利用することができる再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマス等が挙げられる。

次世代自動車

大気汚染物質や温室効果ガスの排出、騒音等の発生が少なく、燃費性能が優れている自動車。ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池自動車、クリーンディーゼル車、天然ガス自動車等が挙げられる。

持続可能な開発のための 2030 アジェンダ

平成 27 年 9 月の国連総会で採択された、持続可能な開発目標（SDGs）を中核とする平成 28 年から令和 12 年（2030 年）までの国際目標。

持続可能な開発目標（SDGs）

SDGs（エスディーゼーズ）は、Sustainable Development Goals の略称。平成 27 年 9 月の国連総会で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられた平成 28 年から令和 12（2030）年までの国際目標。17 の目標とそれらに付随する 169 のターゲットから構成されており、環境・社会・経済の 3 つの側面を統合的に解決する考え方が強調されている。

シャルム・エル・シェイク実施計画

気候変動枠組条約第 27 回締約国会議（COP27）が開催されたエジプトのシャルム・エル・シェイクにおいて採択された緩和、適応、ロス&ダメージ、気候資金等の分野で、締約国の気候変動対策の強化を求める文書。

循環型社会

廃棄物等の発生抑制、循環資源の循環的な利用及び適正な処分が確保されることによって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会。

省エネ最適化診断

一般財団法人省エネルギーセンターが提供している、専門機関のエネルギーの専門家が中小事業者を訪問して、従来の「省エネ診断」に加えて太陽光発電等の「再エネ提案」を加えた診断を行うサービス。

食品ロス

食べ残しや買いすぎによって、本来食べられるにもかかわらず、廃棄されている食品。小売店での売れ残り・期限切れ、製造過程で発生する規格外品、飲食店や家庭での食べ残し・食材の余り等が主な原因となる。

森林環境譲与税

温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な財源を安定的に確保する観点から、国民一人ひとりが等しく負担を分かち合って森林を支える仕組みとして創設された森林環境税を、自治体の実施する森林整備等に充てるための財源。

水源かん養機能

森林土壌が有する、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。また、雨水が森林土壌を通過することにより水質が浄化される。

生物化学的酸素要求量（BOD）

BOD は、Biochemical Oxygen Demand の略称。水中の有機物を微生物が分解する際に消費する酸素の量で、河川で環境基準が定められている。この値が大きいほど、汚濁の程度も大きいことを意味する。

生物多様性

生き物の豊かな個性とつながりのこと。森林・里地里山・河川・干潟等の生態系の多様性、動植物から細菌等の微生物にいたる様々な種類の生き物が存在する種の多様性、同じ種でも異なる遺伝子を持つという遺伝子の多様性の 3 つのレベルの多様性がある。

ゼロカーボンアクション 30

環境省が令和 32（2050）年までのカーボンニュートラルの実現を目指して、衣食住・移動・買い物など、日常生活における脱炭素行動と暮らしにおけるメリットを 30 項目に整理したもの。

■ た行

ダイオキシン類

有機塩素化合物である「ポリ塩化ジベンゾーパラジオキシン」、「ポリ塩化ジベンゾフラン」及び「コプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーPCB）」の総称。物を燃焼する過程等で非意図的に生成する物質であり、高濃度に暴露された場合は、人に対する発がん性があるとされている。

脱炭素社会

二酸化炭素等の温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と森林等の吸収源による除去量との間の均衡が達成された社会、すなわちカーボンニュートラルが実現した社会。

脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動

環境省が、脱炭素社会の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするために開始した新たな国民運動。衣食住にわたる国民の将来の暮らしの全体像「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後」を明らかにし、具体的なアクションを提案するとともに、自治体・企業・団体等の参加の下、脱炭素化による豊かな暮らし創りに向けた取組を展開し、新たな消費・行動の喚起とともに、国内外での脱炭素型の製品・サービスの需要創出にもつなげていくもの。

適応策

温室効果ガスの排出を抑制する緩和策に加えて、既に起こりつつある気候変動の影響による被害を回避・軽減していくための対策。

電気自動車

バッテリーに蓄えた電気を利用して、モーターを回転させて走行することで、走行中に二酸化炭素等を排出しない自動車。

特定外来生物

海外起源の外来種で、生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から「外来生物法」に基づき指定された生物。

土地情報バンク

市内の住宅等が建築できる土地を登録し、土地を買いたい（借りたい）人に情報提供する制度。

■ な行

ナラ枯れ

カシノナガキクイムシが媒介する病原菌により感染するナラ類やカシ類の樹木が枯れる伝染病。

二酸化硫黄

石油、石炭等を燃焼したときに含有される硫黄が酸化されて発生する気体。呼吸器疾患の原因となり、代表的な例としては四日市ぜんそくが挙げられる。

二酸化窒素

工場等のボイラー、自動車のエンジン、家庭のストーブ等で燃料等を燃焼させると発生する気体。呼吸器疾患の原因となる。

日平均値の年間 98%値

1 年間に測定された全ての日平均値を、値の低い方から高い方に順に並べたとき、低い方から数えて 98%目に相当する値。

日平均値の年間 2%除外値

1 年間に測定された全ての日平均値を、値の高い方から低い方に順に並べて、高い方から 2%の範囲にあるものを除外した後の最高値。

■ は行

バイオマス

再生可能な有機性資源で化石資源を除いたもの。間伐材、稲わら、もみ殻、家畜ふん尿、食品廃棄物、下水汚泥等が挙げられる。直接燃焼して燃料として用いるほか、発酵時に発生するメタンガスを燃料として用いる場合もある。

パリ協定

気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）が開催されたフランスのパリにおいて採択された、温室効果ガス削減のための新たな国際的枠組み。温室効果ガス排出削減（緩和）の長期目標として、気温上昇を 2℃より十分下方に抑えるとともに 1.5℃に抑える努力を継続すること、そのために今世紀後半に人為的な温室効果ガス排出量を実質ゼロ（排出量と吸収量を均衡させること）とすることが掲げられている。

微小粒子状物質（PM2.5）

大気中に浮遊する粒子状物質のうち、直径が 2.5 μm （1 μm は 1mm の 1,000 分の 1）以下のもの。浮遊粒子状物質よりも更に小さい粒子であるため、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系への影響に加えて、循環器系への影響が懸念されている。

フードドライブ活動

家庭で余っている食品を地域のイベントや学校、職場等に持ち寄り、それを必要としている福祉団体・施設、フードバンク等に寄付する活動。

フードバンク活動

家庭や食品を取り扱う企業等から、まだ安全に食べられるのに廃棄されてしまう食品を引き取り、福祉施設等へ無償で提供する活動。

浮遊粒子状物質

大気中に浮遊する小さな粒子のうち、直径が 10 μm （1 μm は 1mm の 1,000 分の 1）以下の小さな粒子。工場の事業活動や自動車の走行等に伴って発生し、大気中に長時間滞留し、肺や気管支に沈着して呼吸器系に影響を及ぼす。

プラグインハイブリッド自動車

家庭用電源からコンセントプラグで直接充電できるハイブリッド自動車。走行中に二酸化炭素等を排出しない電気自動車と遠距離走行が可能なハイブリッド自動車の利点を併せ持った自動車。

フロン類

炭化水素に塩素やフッ素等が結合した化合物。エアコンや冷蔵庫・冷凍庫の冷媒や溶剤等の用途で活用されてきたが、オゾン層破壊物質である特定フロンや、オゾン層を破壊しないものの強力な温室効果ガスである代替フロンがあり、フロン類の排出抑制が課題となっている。

ボカシ容器

家庭から出る生ごみ等の有機物をボカシと呼ばれる有用な微生物群を使って発酵させ、堆肥化する容器。

■ま行

マイクロプラスチック

プラスチックごみのうち、波や紫外線により砕かれた大きさが5mm以下のもの。含有・吸着する有害化学物質が食物連鎖に取り込まれ、生態系に及ぼす影響が懸念されている。

マツ枯れ

マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウを病原体とするアカマツやクロマツが枯れる伝染病。

■ら行

レッドデータブック

絶滅のおそれのある野生動植物種に関するデータ集。岡山県では、平成15年に岡山県版のレッドデータブックを発刊し、改訂版として、平成22年には岡山県版レッドデータブック2009、令和2年には岡山県版レッドデータブック2020が発刊されている。

■数字・アルファベット

30・10（さんまる・いちまる）運動

食品ロス削減に向けた取組の一つで、会食時の最初の30分、最後の10分は料理を楽しみ、食べ残しを減らす運動。

3R（スリーアール）

廃棄物のリデュース（Reduce：排出抑制）、リユース（Reuse：再使用）、リサイクル（Recycle：再生利用）の3つの頭文字をとったもの。

75%値

1年間に測定された全ての日平均値を、値の低い方から高い方に順に並べたとき、低い方から数えて75%目に相当する値。

BEMS（ベムス）

BEMSは、Building Energy Management Systemの略称。業務用ビルや工場等の建物において、建物全体のエネルギー設備を統合的に監視し自動制御することにより、省エネルギー化や運用の最適化を行う管理システム。

COOL CHOICE（クールチョイス）

温室効果ガス排出量の削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択」をしていこうという国民運動。

dB（デシベル）

騒音レベルや振動レベルの単位。d（デシ）は10分の1を意味する接頭語で、B（ベル）の10分の1を表したもの。

PDCA（ピーディーシーエー）サイクル

PDCAは、Plan（計画）、Do（実施）、Check（点検・評価）、Action（改善・見直し）の頭文字をとったもので、P→D→C→Aのサイクルを繰り返し行うこと。目標を達成するために業務を継続的に改善する手法として使われる。

ppm（ピーピーエム）

ppmは、parts per millionの略称で、微量物質の濃度の単位。1m³の大気中に1cm³の汚染物質が存在する場合の濃度が1ppmとなる。

SNS（エスエヌエス）

SNSは、Social Networking Serviceの略称。人と人とのつながりを促進・支援するコミュニティ型のWebサイト及びネットサービス。

t-CO₂ (トンシーオーツー)

温室効果ガス排出量の単位。地球温暖化係数の異なる 6 種類の温室効果ガスを CO₂ 基準で換算して重量で表したものの。

ZEB (ゼブ)

ZEB は、Net Zero Energy Building の略称。断熱性・省エネ性能を上げ、太陽光発電等でエネルギーを創ることにより、年間の一次消費エネルギー量（空調・給湯・照明・換気）の収支を実質ゼロとする建築物。

ZEH (ゼッチ)

ZEH は、Net Zero Energy House の略称。ZEB と同様の考え方で、年間の一次消費エネルギー量（空調・給湯・照明・換気）の収支を実質ゼロとする住宅。

第 2 次 浅口市 环境基本计划

発行年月 令和 5 年 3 月

発行 浅口市

編集 浅口市 生活環境部 環境課

〒719-0295 岡山県浅口市鴨方町六条院中 3050 番地

TEL : (0865)44-9043 FAX : (0865)44-5771

URL : <https://www.city.asakuchi.lg.jp>
